

公開セミナー「岐路に立つODA」開催

## 日本のODA、各国の自助努力に貢献

3月14日、東京・時事通信ホールにおいて開催された公開セミナーでは、ODA総合戦略会議議長代理の渡辺利夫拓殖大学学長による基調講演、ODA民間モニター報告会、国際協力ポランティア・コンサート、国際協力写真展など多彩な内容で開催され、200名を超える参加者が会場に集まった。

基調講演 拓殖大学 渡辺利夫学長

### 「日本のODAを

### どう考えるか」

渡辺氏は、日本の援助の特徴として、(1)主要援助対象地

域は東アジア、(2)国の経済発展の基盤となる産業インフラへの支援を重視、(3)インフラ整備に元本利子返済を要する借金を適用、をあげ、これを「日本型ODA」の特徴とした。それを支える理念が自助努力支援だと指摘。ODA大綱でも重要な理念としてこれを最初に掲げられているとした。

そして、一国の自助努力を示す指標として、国内貯蓄率の高さと対外債務返済比率をあげた。さらに、ODAの開発効果は、「ODAが民間企業の活力と結びついて初めて発揮される」とし、ODAの触媒効果のメカニズムを分析する必要性を説いた。

また近年では、運輸・通信などの物的インフラとともに、経済成長に欠かせない市場や法整備などの制度インフラへの知的支援を強調。

一方、欧米で主流化しつつある貧困削減戦略(P.R.S.P.)体制については、「開発途上国の能力を遥かに超えるラディカリズムではないか」と指摘。一国の発展は熟練労働者を蓄積し、企業家を育成し、官僚を錬磨する営々たる努力の積み重ねであるとした。

そして、なぜ日本がODAに熱心に取り組まねばならないかについては、ODA大綱の理念、

にふれ「貧しい人々、虐げられている人々、弱い立場の人々に手を差しのべることによって生まれる、日本に対する尊敬と信頼があつてこそ、日本の安全と繁栄が確保されるという点に集約される」と指摘した。

### ODA

#### 民間モニターからの報告

海外で実施されている日本のODAの現場を視察してきたモニターの伊藤恵氏(ベトナム派遣、学校職員)、松井聰氏(エジプト派遣、社会科教員)、清水唯史氏(セネガル派遣、会社員)が、それぞれの感想や帰国後の活動などについて報告。

「その国の良さや伝統文化、自然を守っていける持続可能な開発を」(伊藤氏)、「人間の心意気、温かさ、つながりの深さが価値を生み出す」(松井氏)「もう少しアフリカ支援に割ける人材と資金を増やしては」(清水氏)など、市民の視点から見た日本のODA事業への意見を、写真や教育教材を用いて発表した。

### 国際協力

#### ポランティア・コンサート

2002年にパキスタンを訪れ、隣国アフガニスタンの難民キャンプに約1800万円を届けた「カズン」がライブコンサートを開催。現地の人々との交流の映像と、現地での思いを歌にした「未来の空」など、透明感のある澄んだ歌声が会場全体に広がった。

・当日の様子は国際協力プラザのホームページ「ODAインターネット」で見られます。

<http://www.apic.or.jp/plaza/tv/>



基調講演を行う渡辺氏

# Information

